

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 尾倉 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

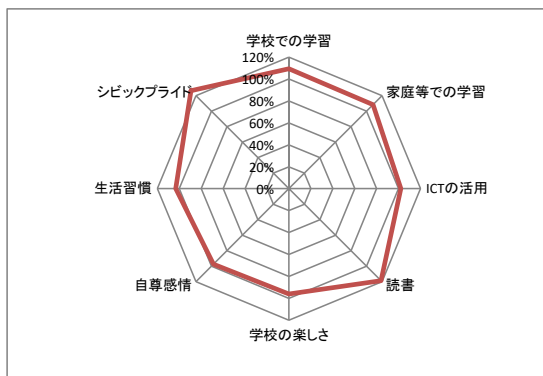
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	概ね全国平均を上回る結果となった。その中で「思考力・判断力・表現力等」の読むことに関する正答率は全国平均から若干下回る結果となった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	文脈に即して漢字を正しく書く問題	
	努力が必要な問題	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全国平均・市平均よりも下回り、特に「図形」に関する力が低い結果となった。また「データの活用」については、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見えた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	四分位範囲の意味理解に関する問題	
	努力が必要な問題	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取る問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	全国平均・市平均よりも下回り、特に「書くこと」に関する力が低い結果となった。また「聞くこと」については、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることに課題が見えた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文と文との関係を正確に読み取る問題	
	努力が必要な問題	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書く問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して肯定的回答は高い。それらが、学力向上につながっていないことが今後の課題である。 ・「学校に行くのは楽しいと思う」「自分には、よいところがあると思う」の結果が全国平均より若干低い。教育相談や定期的な生活アンケートなどを利用し生徒の声をいつでも反映できる体制を今後も推進していきたい。 ・「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の結果が全国平均よりかなり高い結果となり、地域に対して責任と愛着を感じることができる地域風土であることがわかる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・生徒につけたい力を明確にした授業づくりと補充学習による基礎学力の定着に努める。
- ・放課後の補充学習や、GIGA端末学習を利用した学習を継続する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の時間は充実しているが学力向上につながっていない。家庭学習の内容（プリント学習、GIGA端末学習）を教師側が精選し行わせていく必要がある。
- ・GIGA端末を利用したAIドリル等での学習の充実を図る。